

上棟式(6月14日)



門徒会館建設へ!!

ようこそ

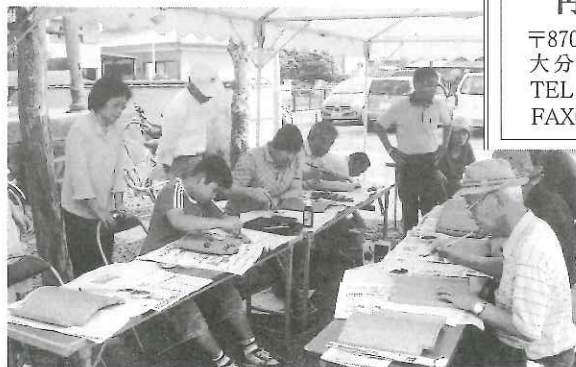


(上) 会館完成に向けてお祝いのもちまき

(左) 境内いっばいに多くの人たちが集まりました(2009年6月14日)



それぞれの思いを瓦にこめて



次々と瓦に名前が書き込まれました



施行業者(池邊建設)と寺役員の皆さん“よろしく願い致します”(5月19日)



御本尊をご安置して起工式のお勤めをしました(建設予定地特設荘厳壇御仏前)

起工式(5月19日)

第 16 号
浄土真宗本願寺派
円光寺
〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL097-527-6916
FAX097-527-6949

お念仏のつながり
一 つ つ にな れ る

瓦懇志のアイデア

会館建設にあたって瓦懇志を募りました。総代会をはじめ世話人会、円成会、仏婦・仏壮会に会館構想をお話しする中で、ご門徒メンバーから頂いたアイデアです。

上棟式に75名の懇志進納者が来寺して、448枚の瓦に筆書きをしました。家族で書き込みをしていた光景が印象的でした。おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、そして子どもたちと、三世代のいのちがつながりました。何十年か先に、瓦にご先祖の名前を見つけて子や孫は何を思うのでしょうか。あたたかい気持ちになりました。



瓦書きする孫をやさしく見守るおじいちゃん(6月14日)

ご案内

- ◆常例法座
7月16日(木) 10:00~11:30
- ◆初盆会・盆おどり大会
8月12日(水) 19:00~21:00
- ◆全戦没者追悼法要
(平和を願う鐘つき)
8月15日(土) 11:00~12:00
- ◆秋彼岸会
9月24日(木) 11:00~14:00
同 19:30~21:00
9月25日(金) 13:30~15:00

“月に一度は
お寺参りしましょう”

チーム円光寺



拡大総代会(6月11日) 総代(4名)と各会代表者の会です 住職のよき相談者です

お寺に次々に集まったご門徒衆の姿にまた感動しました。それこそ皆さんが、瓦に名前を書き込む人、そばで補助をする人、その瓦を運ぶ人と、それぞれが



総代世話人会(4月12日) 地区世話人(22名)が出席してお寺の護持運営について協議します

自分の役割を見つけてお手伝いしてくださいました。日頃からのお寺への熱い思いを感じます。一人一人が一つのチームになったようで嬉しかったです。ご門徒皆さんのお寺、チーム円光寺になりました。
お念仏につながった私たちです。親鸞聖人750回大遠忌に向けて、いよいよ「円光寺しんらんさま750プログラム」を進めていきます。

世々生々

1歳の子の50回忌の法事をお勤めした。今生きていたら50歳だと親は言う。戦後間もなくベビーブームで沢山の子どもが生まれたが、亡くなった

幼児も多い◆科学技術の発展は人類に様々な恩恵をもたらした。その一つが医学の進歩である。50年前には治らなかつた病気が治るようになった。しかし子に先立たれた親の思いは今も変わらない。そして私たちは新たな課題を背負うことになる◆臓器移植法改正の国会論議が急である。1997年に成立した現行法だが、1万を超える希望者に対し81の移植例という現状が背景にあるという。50年前は考えられなかつた臓器移植で、助かる命が助かるという◆脳死状態で臓器を移植することは、一人の人の死を前提にする。「脳死は人の死か」私たちの死生観が問われ、生命倫理の課題は重い。果たして人の死を法で一律に決めていいものか◆移植でしか命を救えない子どもがいる。脳死状態だが心臓は動き温かい体の子どもがいる。そしてその子どもたちを見守る親がいる。生死の苦悩を生きる私たちに寄り添う仏さまのみ教えに、いのちの尊厳を聞かせていただく。

お朝事「法話」より

名号六字の鐘

朝夕六時にお寺の梵鐘をつきます。「何で六時ですか」と尋ねられます。時刻を告げる鐘と思われているようですが、実は集会鐘といって一時間後にお寺の法要が勤まりますという合図なんです。「そろそろ身支度してお寺にお参りください」と。そして法要の直前に喚鐘をならしてお勤めが始まります。鐘にはそれぞれお役目があります。

六字の名号といえます。私たちがこの本尊、南無阿弥陀仏のお名号、阿弥陀さまの「我にまかせよ、必ずすくう」のおよび声、声になってくださった仏さまのおはたらきです。

お寺の梵鐘には南無阿弥陀仏の六字が刻まれています。まさに名号六字の鐘をつきます。「皆の衆、いつも私が一緒だよ。大丈夫だよ、安心しなさい」と、阿弥陀さまのおよび声が朝夕聞こえてまいります。朝は「おはよう。今日も一日のち恵まれて、お念仏申して生きていきましよう」と、夕は「今日も一日ご苦労さまでした。ゆつくり休ん

でまた明日」と、南無阿弥陀仏のおよび声に励まされ、支えられ、生かされて生きる身の幸せを思います。

名号六字の鐘がなります。「名号六字の鐘がなる。めざめてお寺のおあさじにお参りしましよ。名号六字の鐘がなる。帰つておいでと鐘がなる」。日が暮れるのも忘れて遊ぶ子どもたちに、「仕事を終えた人たちに、家々から「帰つておいで」と声がかかります。

私たちの帰るところはお浄土です。迷いの境界を生きる苦悩の衆生をすくい取ろうと、阿弥陀さまは真実さとのり世界、お浄土をつくつてくださいました。お浄土は私たちのいのちの古里です。命終わつたその時に南無



三佐ぐるり一周早朝ウォーキング
この後、お朝事にお参りました
(6月22日朝5時円光寺出発)

阿弥陀仏のおはたらきひとつで阿弥陀さまのお浄土に帰らせていただきます。

お寺の鐘がガンと聞こえます。まさに仏さまの願いそのものです。「めざめよ、めざめよ、どうか真実にめざめてくれよ」という大きな大きな願いです。梵鐘、喚鐘にこめられた仏さまの願いが聞こえたときに、「眠っちゃおれんな、お参りしようえ、聞かせてもらおうえ、一緒にいこうえ」と皆さん誘い合わせて、どうぞお寺にお参りください。

(3月28日)

お朝事にお参りしましょう
〈毎朝6時半〜7時〉

揭示伝道、一年になります。

昨年7月にご門徒衆にお手伝いいただき、伝道揭示板を製作、三佐地区内15か所に設置し揭示伝道を始めて1年になります。

毎月一つずつ、岸田孝義さんに法語を書いていただきます。「揭示板のことばをみて、心がいやされます」と言う地域の方の声を励みに、これからも続けていきます。ご協力いただく皆様に心から御礼申し上げます。

第2回帰敬式ツアー

6名のお同行がご本山(京都)にお参りし、おかみそりを受け法名をいただきました。



修復なった本願寺御影堂の前で(5月25日)



町角伝道揭示板
(6月のことば、薬師堂・御手洗義高様宅前)

藤並ツネ前々坊守五十回忌祥月命日法座

2月10日(火)に藤並ツネ(浄華院釋妙薫)円光寺16世坊守の五十回忌法座をお勤めしました。

ツネさんは明治19年生まれ、院内町大副の佐藤家から入寺、照哲住職と結婚、戦前戦中戦後の貧しく厳しい昭和の時代を、住職をたすけ共々に円光寺を護り抜いてきました。

ふくよかな容姿の明るい性格で、ご門徒だけでなく地域の方々にも親しく接し、誰彼となく「さあ、ありがたよ」とお寺の家に招いては「はよう食べよ」と食事をふるまったといひます。

花まつりの会



遠見公民館から新港まで白象パレードをしました(4月7日)



新一年生を祝う会(4月7日) 本堂前特設花御堂前で



たくさんのご門徒衆がお参りされ 思い出話に花が咲きました(2月10日)

多くの人が出入りしいつも賑やかな円光寺の元気の源をなつかしく思い出します。

親鸞聖人降誕会



初参式(5月17日) (左から) 疋田りょうたさん、池辺かなでさん、矢野しゅんたさん、御手洗かほさん



降誕会バザー(5月17日) 本堂でカレーライスやかき氷をいただきました



ほれぼれと仏法聴聞 藤川顕彰講師(熊本市長宝寺様) (5月17日)

ついにその時が来た。十年来愛用のワープロが壊れた。最近調子が悪いなど思いながらも酷使し続けてきた。まさに『ようこそ』の原稿書きの最中だった。使い慣れたわが友は、リズムよく文章を奏で私の思いを多くの人に伝えてくれた。私のそばにいつもあなたがいるような、私にとつても大事な存在だった。今はただ「ご苦労さま、ありがとう」と感謝は尽きない。いよいよパソコンという新たな友との日常が始まる。この『ようこそ』が初仕事。ようこそ、よろしくお願ひします。

あとかぎ



花まつりの当日、花御堂をかこんで(4月8日、本願寺別府別院)

別府別院報恩講にお参りしました